

議員提出議案第11号

コロナ禍の学校における対応と少人数学級推進に関する意見書  
上記の議案を提出する。

令和2年10月23日

提出者 豊島区議会議員

儀 武 さとる 清 水 みちこ  
渡 辺 くみ子 小 林 ひろみ  
わがい 哲 代 塚 田 ひさこ  
古 堺としひと

豊島区議会議長 村 上 宇 一 様

コロナ禍の学校における対応と少人数学級推進に関する意見書

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が解除され、6月1日から学校が再開された。

学年の締めくくりと新たな学年のスタートの時期の3カ月もの休校、夏休みの短縮、学校行事の縮小・中止などは子どもにはかりしれない影響をあたえている。長期に授業がなかったため、子どもの学習に相当の遅れと格差をもたらしている。

引き続き感染予防の取組が必要であることや、子どもの学習、成長、発達の機会の保障、生活環境を整えること、心のケアなど、児童・生徒の置かれた状況にもとづく、きめ細やかな対応が求められている。

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議は、「新しい生活様式」として、「身体的距離の確保」を呼びかけ、「人との間隔はできるだけ2メートル（最低1メートル）空けること」を基本としている。しかし「40人学級」では、2メートル空けることはおろか、1メートル空けることも不可能な状況である。

子どもへの手厚く柔軟な教育のためにも、感染症対策のためにも、学校の教職員やスタッフを思い切って増やし、20人程度の授業などができるようにすることが望ましい。日本教育学会は潜在的な人材のプールを踏まえ、平均1校当たり小学校3人、中学校3人、高校2人の教員を加配する10万人の教員増を提案している。

よって、豊島区議会は、三密を避け、一人ひとりの子どもの成長を大事にした教育を進めるために、必要な教職員の加配と財政支援を行い、少人数学級を実施することを要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

年 月 日

豊島区議会議長名

衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
財務大臣  
文部科学大臣  
東京都知事  
東京都教育長

あて